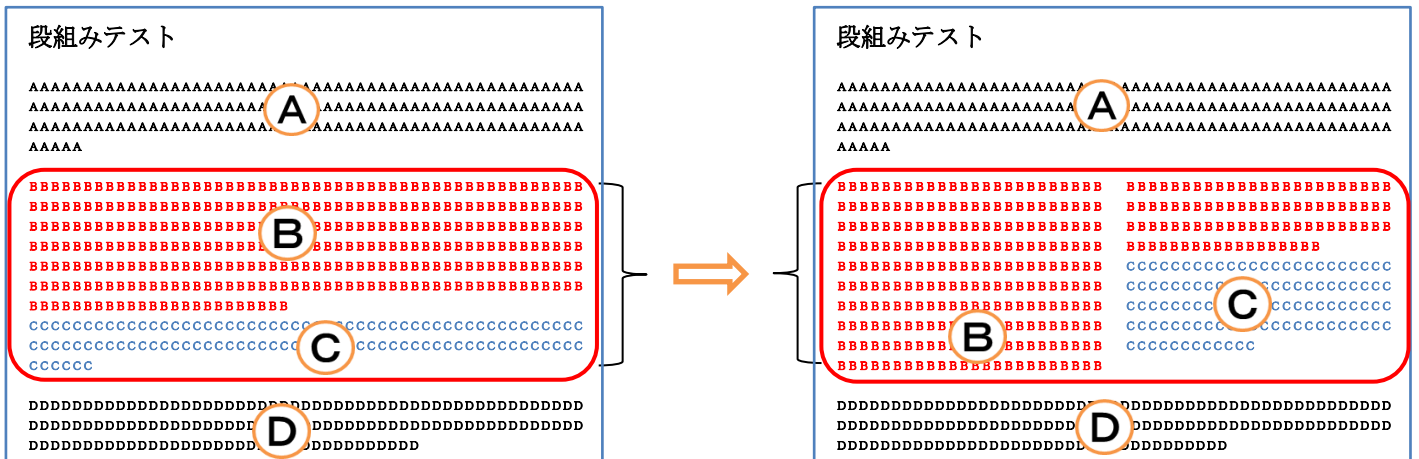


ワードの段組みで読みやすくしよう

ワードの段組みの機能を利用すると、行が短くなって読みやすくなります。

1. 「2段組み」にするには{文章範囲を選択→ページレイアウト→段組み→2段}とクリックします。
下図は、「B」「C」の範囲を選択して2段組みにした例です。B、Cの部分だけが変化します。



2. 実際に例文「星の銀貨」を使って2段組みの文書にしてみましょう。

- (1) 例文として、グリム童話「星の銀貨」をインターネットから「星の銀貨」で検索して、日本語訳原文を直接ダウンロードします。
- (2) ページ設定: 上下の空白を23mm、左右の空白を12.7mmに設定。
- (3) 「出典」の入力: 本文の末尾に空白行を2行程度追加後、下記の「出典」を入力します。
(出典) 青空文書 作品名: 星の銀貨 著者名: グリム兄弟 訳者: 楠山正雄
- (4) フォントサイズ — タイトル～訳者の部分: フォントサイズ36～20程度で適宜調整。
本文のフォントサイズ: 14 程度
- (5) 2段組み化: 本文部分をドラッグし選択後、「ページレイアウト」→「段組み」→「2段」をクリック。
- (6) クリップアートで星のイラストを挿入して完了です。

用紙 A4縦
余白 上下23mm
左右

星の銀貨 DIE STERNTALER

グリム兄弟 Bruder Grimm

楠山正雄訳

フォントサイズ 28

フォントサイズ 36

フォントサイズ 24

フォントサイズ 22

本文部分:
段組み 2段
フォントサイズ 14

むかし、むかし、小さい女の子がいました。この子には、おとうさんもおかあさんもありませんでした。たいへんびんぼうでしたから、しまいには、もう住むにもへやはないし、もうねるにも寝床がないようになって、と

にだけすがって、ひとりぼっち、野原の上をあるいて行きました。すると、そこへ、びんぼうらしい男が出て来て、「ねえ、なにかたべるものをおくれ。おなかですいてたまらないよ。」と、いいました。

3. 別な例文「旗本移転後の始末」を使用して縦書きの2段組み文書にしてみましょう。

(1) 原文として、インターネットから「旗本移転後の始末」を直接ダウンロード。

(インターネットから「旗本移転後の始末」で検索し直接ダウンロードする)

(2) ページ設定: A4横、縦書き、上下の空白を12.7mm、左右の空白を10mmに設定。

(3) 「出典」の入力: 本文の末尾に空白行を追加後、下記の「出典」を入力します。

(出典) 青空文書 作品名: 旗本移転後の始末 著者名: 勝海舟

(4) フォントサイズ — タイトル、著者名の部分: フォントサイズを各々28、20程度。

本文のフォントサイズ: 14程度

(5) 2段組み化: 本文部分をドラッグし選択後、「ページレイアウト」→「段組み」→「2段」をクリック。

備考: 「出典」の箇所は、段組み後に「縦書きテキストボックス」の形で入力してもOKです。

その場合、「文字列の折り返し」を「四角」または「外周」とします。

フォントサイズ` 28

旗本移転後の始末

勝海舟

維新の際、旧旗本の人々を静岡に移したのは凡そ八万人もあつたが、政府では十日の間に移してしまへど注文したけれども、それは到底出来ないから二十日の猶予を願つて汽船二艘で以て運搬した。併しその困難は非常なもので、一万二千戸より外にない静岡へ、一時に八万人も入り込むのだから、おれは自分で農家の間を奔走して、とにかく一まづ皆の者に尻を据えさせた。

この時、沼津の山間で家作も随分大きい旧家があつたがそこへ五十人ばかり宿らせて、おれも共に一泊した、その家の主人は、今一寸名を忘れたが、七十あまりの老人で、おれに挨拶していふには、拙者の家は当地での旧家だが、貴人を宿させたのはこれで二度目だといふから、二度とは何時々と問ふたら、昔し本多佐渡守様を泊めたのだといふ。本多佐渡守を泊めたことについては、何か記録でもあるかと尋ねたら、記録はないけれども、口碑に伝はつて居るといふ。然らば、そ

の仔細を聞かせよといったら、老人が話すには、それは太閤様小田原征伐の一年前で、明年ここへ十万の兵が来るから、予め糧米や馬秣を用意する為に小吏では事の運ばぬを恐れてか、本多様は自分でこゝえ御出になつたのだといふ。然らば明年になつて糧米馬秣は如何にしたかと問ふたら、答へるには十万の兵が来た為に米は却つて安くなつた。これは去年から皆の人が沢山貯へて置いたからだ。且つ又上様(家康)の御仕合には、沼津の海岸は常に浪が荒くつて、糧米などを大船から陸揚げすることはむづかしいのに、この当時には丁度天氣がよくつて浪も穏やかであつた為に、他国からも糧米を容易に輸入することが出来たからだ。それからといふものは、此地方では風波の平穩なのを、「上様日和」と称すると答えた。古人の意を用いたのは昔はこの通りだ。さて、彼の八万人を静岡へ移してから、三四日経つと沢庵漬はなくなり、四五日経つと塵紙が無くなりおれも実に狼狽したよ。

(出典) 青空文庫

作品名: 旗本移転後の始末

著者名: 勝海舟

フォントサイズ` 11

本文部分:
段組み 2段
フォントサイズ` 14

用紙 A4横 縦書き
余白 上下12.7mm
左右10mm

フォントサイズ` 20